

J **apanese text**

2010年 秋/冬号 日本語編

Works

読

画・文＝篠田桃紅

p.009

ものを読む時の、人のかたち、
その時、その人のまなざし、指、肩のかたむき、
何だか、それは優しい。そして、どこかさみしい。

この日ばかりは客席の空気も普段のレースと違う。人と馬が心一つになってもうもうと湯気を上げながら持てる力を振り絞って障害を越えようとする姿に、みな感動し観客の半分は涙する。このレースだけは最後の一頭がゴールするまで観客は見届ける。途中で挫折し完走できなかった馬にも温かい拍手が送られる。

冬

ばんえい競馬

写真＝太田宏昭 文＝編集部

p.010

かつて北海道を人とともに開拓してきた馬たちが**橇**を曳くレースがある。「ばんえい競馬」の冬は人と馬の熱気で寒さを忘れる。

(p.013) 昭和21年(1946年)公営競馬としてスタート。4年前まで4か所で開催されていたが、累積赤字増大により旭川市、北見市、岩見沢市の市営競馬場が撤退。現在は唯一、帯広市が「ばんえい十勝」として続けている。

(p.011)

早朝から「ずりびき」(橇を曳く訓練)をするばんえい馬。
もともとは、北海道開拓時代、農耕馬として切り倒した木材などを運んできた馬たち。馬の力を競い合った祭りがばんえい競馬のルーツである。求められるのは、馬の速さではなく力、そして橇から馬を操る騎手の技術だ。

p.012

太い足、高い背、筋肉質の体躯から繰り出される重機のような力に、初めて間近で見ると人は度肝を抜かれる。サラブレッドの2倍以上、1トンに及ぶ体重を持つばんえい馬のレースだ。ばんえい競馬は、馬が重い鉄橇を曳きながら、二つの障害(坂)を含む200メートルの直線コースで競うという、世界で唯一、北海道・帯広競馬場で行われている公営競馬である。

4月に始まり年間通してレースは行われるが、雪の中で行われるレースは北海道ならではの。特に冬3月に行われるレース「ばんえい記念」は、一年間の最大のクライマックスだ。錘で調整された最重量1トンもの橇を曳き、頂点を競う。